

愛知県知多半島のタヌキモは全てイヌタヌキモ

磯部 亮一

会報No.24号(1986)に知多半島中南部におけるタヌキモの自生地など知見を報告したが、ノタヌキモ・イトタヌキモを除くタヌキモ類は、生育場所の環境によってその外見の変化が著しく、開花しない集団もあって、識別は至って容易でなかった。

山本・角野(1988)、角野(1989)は、兵庫県南部に産する「タヌキモ」の再検討を行ないイヌタヌキモとタヌキモの識別方法について詳細に論説し、野外調査の結果64カ所の内98%がイヌタヌキモであったと発表している。

このたび角野先生からの依頼もあって、筆者は、昨年(1988)夏期に知多半島において採集した腊葉標本7点を神戸大学教養部生物学教室に送付した。同定の結果いずれもイヌタヌキモであることが判明した。

更に、今年(1989)2月上旬に下記10カ所の殖芽を採集、比較観察した。

- 6 常滑市小鈴谷字土取
- 7 美浜町奥田字奥白沢
- ⑧ " 上野間字池田口
- ⑨ 常滑市小鈴谷字細谷
- ⑩ " 久米字納坂 (1988年、新見栽培)

採集地番号の○印は、これまでの調査で筆者らがタヌキモとした自生地である。採集した殖芽形状は、10カ所とも同一形状で塊状のものは2~8mmと小さく、伸長を始めた殖芽葉は通常葉と異なり、「タヌキモ」に該当するものはみられなかった。

従って現在、知多半島のタヌキモは、全てイヌタヌキモであると判断している。なおNo.1~10で採集した殖芽の標本は神戸大学へ納入しておいた。

参考文献

山本功人・角野康郎.1988.兵庫県南部におけるタヌキモとイヌタヌキモの分布. 植物地理分類研究 36:72-75.

角野康郎.1989.タヌキモ類の分類と開花・結実をめぐって. 日本の生物 3(2):63-68.

- No. ① 阿久比町板山字東高根
- 2 " 矢高字伊賀田 (1988年新見)
- ③ 美浜町河和字細田
- ④ 常滑市小鈴谷字隠廻間 (ジュンサイ池)
- ⑤ " 桧原字三郎谷 (桧原公園)

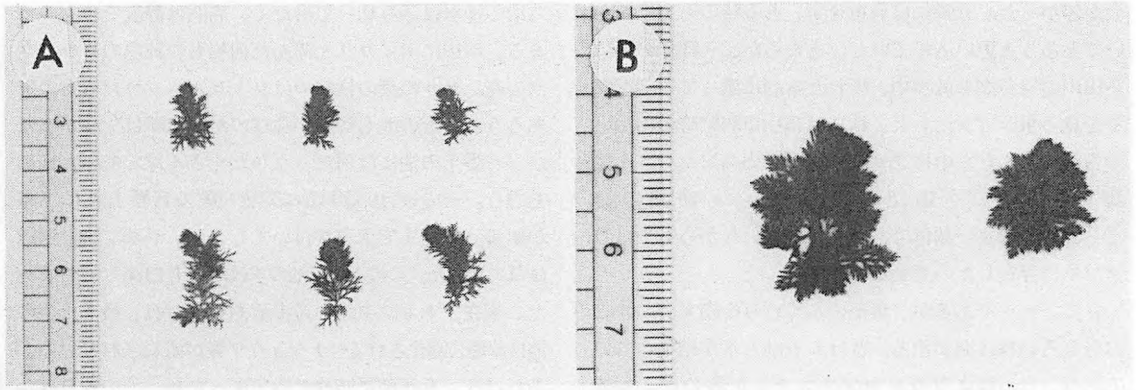


写真.発芽を始めたイヌタヌキモの殖芽. A.阿久比町伊賀田、B.美浜町池田口